

授業科目名	身体コミュニケーション実習 1	担当教員	児玉 北斗 深澤 南土実 岡元 ひかる
必修の区分	選択		
単位数	1 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1 年 第 1 クォーター		
講義内容	この授業の目的は、会話やダンスなどを通じて身体的なコミュニケーションや表現の可能性を知ることにあります。内容は主に、会話や踊りが起こりやすい空間や人との間合いなどを探りながら、身体感覚に基づくコミュニケーション(交感や共感)のあり方を学んでゆくものです。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー間で、身体感覚に基づくコミュニケーションを／も取ることができるようになる 2. 自身の体験や他者の表現について感じたこと、思ったことを言語化することができる 3. 身体表現の可能性について考えることができる 		
授業計画	<p>初回にガイダンスを行い、授業内容についてあらためて説明しますが、大きくは次のような内容を用意しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション (児玉・深澤・岡元) 2. からだの声をきく、身体との対話 (脱力、重心・重力を感じる、呼吸と身体感覚) (深澤) 3. 空間と遊ぶ (床・空間・他者を感じる、歩く) (深澤) 4. 身体の重さや距離をはかる (岡元) 5. 言葉と動きの翻訳 (岡元) 6. 歩く、話す、聞く (児玉) 7. ソマティックス：身体の内的な感覚と動きとの関係 (児玉) 8. 他者と自己の境界 (児玉) 9. ライブ・コンポジション A：環境から誘発される動きの構成 (児玉) 10. ライブ・コンポジション B：動きやポーズをゲーム的に構成する (児玉) 11. ライブ・コンポジション C：構成のシステムを理解し、実践する (児玉) 12. まとめ・授業内レポート (児玉・深澤・岡元) 		
事前・事後学習	授業内容をもとに、日頃から自身の身体感覚に注意深くなってみる。自分の身体の内側と外側との関係を探ったり、他者の身体動作に興味を持ち自身が何から気づきを得ているか書き留める (事前・事後学習として週 4 時間程度)。		
テキスト	特に指定しない		

参考文献	授業内で適宜紹介する
成績評価の基準	平常点 50% : 毎回の授業中の様子をもとに到達目標の 1 と 2 から判定する。 課題点 50% : 授業内容に関するレポートを 1 回課し、到達目標の 3 から判定する。
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	<p>教育の質保証ならびに授業の運営・安全確保の観点から受講定員を 30 名とします。</p> <p>定員を超過した場合は、1 年生を最優先します。2 年生以上で選考が必要な場合は、成績（GPA 等）を見て担当教員が判断します。</p> <p>この授業では複数人でワークすることが多くなるので、遅刻には気を付けること。</p> <p>他の参加者との身体的接触を伴う場合があります。強く抵抗がある場合は教員とよく相談の上で履修してください。</p> <p>2021 年～2024 年度入学生 : 「身体コミュニケーション実習」 2 単位 「身体コミュニケーション実習 1」、「身体コミュニケーション実習 2」を同時に履修して 2 単位。1, 2 を個別に履修することは認められません。</p>